

## 来訪者の滞在及び多様なアクティビティを促すマーケットの空間的特徴

### 「12th International Public Market Conference」を通して

#### Spatial Characteristics of the Market that Promote Visitors' Comfortable Stays and Diverse Activities Through Participation in the “12th International Public Market Conference”

○細矢瑞稀<sup>1</sup>, 佐野充季<sup>1</sup>, 五味桃花<sup>1</sup>, 吉田明斗<sup>1</sup>, 泉山墨威<sup>2</sup>

\*Tamaki Hosoya<sup>1</sup>, Mitsuki Sano<sup>1</sup>, Momoka Gomi<sup>1</sup>, Akito Yoshida<sup>1</sup>, Rui Izumiyama<sup>2</sup>

Abstract: This study clarifies the spatial characteristics of the U.S. market that promote comfortable stays and diverse activities. We participated in the 12th International Public Market Conference held in Milwaukee, Wisconsin, USA, and analyzed the results of our field visits to local markets. As a result, (1) Clearly separate visitor flow paths to plan spaces where people can comfortably spend time. (2) When operating a market, utilize surrounding facilities and public spaces as well. (3) Design spaces that incorporate both temporary and permanent lingering areas to foster both intentional and spontaneous activities. I think that planning such spaces will lead to comfortable stays for visitors and the creation of diverse activities.

### 1-1. 研究の背景及び目的

近年、国内では、大規模集合住宅や再開発の増加等による都市化に伴い、地域コミュニティの希薄化が進んでいる<sup>注1)</sup>。また、利便性を重視した商業施設の増加や商店街の衰退等により、近隣住民の日常的な交流の場の減少が課題に挙げられる<sup>注2)</sup>。これらの課題解決には、地域内に近隣住民とのつながりを持つ空間や地域コミュニティに参画が可能な機会を設けることが重要であり、その手法の一つにマーケットがあると考えられる。

国内では、マーケットの開催を通じて地域課題の解決に取り組む事例が増加している。国内の半数以上の自治体が運営・支援等の関連業務を実施し、地域経済の活性化から公共空間の利活用、コミュニティ活性化まで幅広い目的で開催している<sup>[1]</sup>。しかし、国内で開催するマーケットはイベント的な一過性のものが多く、地域貢献を達成するのは難しい現状にあると考える。

一方、海外では、マーケットの開催が地域コミュニティの活性化や地域経済への貢献に寄与する事例が多数存在する。「Project for Public Spaces」のレポート<sup>[2]</sup>によると、最も賑わい、成功する米国のマーケットは、住民の滞在や多様なコミュニティ活動を促す空間である。よって、マーケットは、滞在や活動を促す空間が地域課題の解決に寄与すると考える。

以上より、本稿では、来訪者の滞在及び多様なアクティビティを促す米国のマーケットの空間的特徴を明らかにする。

### 1-2. 研究の方法

2025年6月に、米国・ウィスコンシン州ミルウォーキー市にて開催された「12th International Public Market Conference」<sup>注3)</sup>で得た知見及びマーケットの現地視察

の成果を分析し、空間的特徴を速報的に報告する。

### 2. マーケットの空間的特徴

#### 2-1. カンファレンスの開催概要

12th International Public Market ConferenceはProject for Public Spacesの主催により2年に1度開催するイベントである。2025年は「Public Market for Every City」をテーマとして掲げ、Milwaukee Public Market<sup>注4)</sup>との共同で開催した。本イベントは、マーケットが全ての都市で繁栄する未来を想像する機会を提供し、都市規模や人口に関係なく、全ての人が利益を受けられることを目的としている(**Table1**)。

また、ミルウォーキー市は、行政及び民間が共同でコミュニティ主導の公共空間を創出するために、市内全域でのプレイスメイキングを積極的に取り組む都市である。マーケットにおいても、開催が地域の経済やコミュニティの促進に重要な役割を果たしている<sup>注5)</sup>。

#### 2-2. マーケットの空間的特徴

12th International Public Market Conferenceの一環として、現地視察を行ったマーケットの空間的特徴を整理した(**Table2**)。

**Table1. カンファレンス開催概要**<sup>注6)</sup>

開催日時	2025年6月11日(水)~2025年6月14日(土)
開催場所	米国・ウィスコンシン州・ミルウォーキー市
主催団体	Project for Public Spaces / Milwaukee Public Market
開催目的	テーマ「Public Market for Every City」 ・マーケットが <b>すべての都市で繁栄</b> する未来を想像する機会を提供 ・都市規模や人口規模に関係なく、マーケットで <b>すべての人が利益を受けられる</b> ようにする
開催の様子	 マーケット実務者によるパネルディスカッション      カンファレンス参加者との交流

1 : 日大理工・院 (前)・建築 2 : 日大理工・教員・建築

Table2. ミルウォーキーにおけるマーケットの空間的特徴<sup>注6)</sup>

	MKE NIGHT MARKET	South Shore Farmers Market	Oak Creek Farmers Market	Kenosha Harbor Market
日時	6月から9月限定 月1回の水曜日 17:00~21:00	毎週土曜日 8:00~12:00	毎週土曜日 9:00~13:00	毎週土曜日 9:00~14:00
場所	道路（通行止め） 310 W Wisconsin Ave #1450E Milwaukee, WI 53203	サウス・ショア・パーク（公園） 2900 S Shore Dr, Milwaukee, WI 53207	市民センターの向かいの広場 361 W Town Square Way, Oak Creek, WI 53154	国立博物館前の道路 2nd Ave &, 56th St, Kenosha, WI 53140
運営	Westown Association (BID) が主催し 周辺施設や公開空地と連携した開催	サウスショアファーマーズマーケット委 員会が主催しボランティアによって運営	オーククリーク市とオーククリーク観光委 員会が主催	Kenosha Common Markets（非営利団 体）が主催
空間	・周辺との一体的な空間の活用 ・イスやテーブルだけでなく、多様なアク ティビティを誘発する什器を設置	・園路に沿った店舗配置と中央の芝生広場 を滞留空間として活用 ・常設の芝生での偶発的なアクティビティ	・来訪者を中央の広場に引き込む空間構成 ・プログラムによる意図的な空間活用と来 訪者による自由な空間の活用	・マーケット内の店舗の動線と滞留空間を 離れた位置に計画 ・仮設と常設、双方の滞留空間
空間活用の様子	 隣接する公開空地の活用	 独自のアクティビティを誘発	 園路沿いの店舗配置	 芝生での自由なアクティビティ
	 広場中央での来訪者の滞留	 ヨガプログラムによる空間活用	 店舗動線と滞留空間の棲み分け	 仮設・常設の滞留空間の活用

(1) MKE NIGHT MARKET (ミルウォーキー市)

6月から9月の月1回の水曜日に地元の BID 団体が主催し、道路空間を活用するマーケットである。

道路空間に出店する店舗を中心とした、周辺との一体的な空間活用が特徴的である。道路空間に留まらず、隣接する公開空地やオープンスペースといった周辺を滞留空間として活用し、来訪者の滞在を促すと考える。また、椅子や机だけでなく、特徴的な什器を設置し、多様なアクティビティを誘発すると考える。

(2) South Shore Farmers Market (ミルウォーキー市)

毎週土曜日に、地元団体及びボランティアが主催し、公園を活用するマーケットである。

公園の園路沿いに店舗を配置し、中央の芝生広場を滞留空間として活用する特徴がある。また、仮設の机・椅子だけでなく常設の芝生を活かした滞留空間の計画である。来訪者の動線を分け、快適に滞在できる空間を提供することやピクニックやボール遊びといった来訪者の自由な活動を促すことが、滞在や多様なアクティビティの創出につながると考える。

(3) Oak Creek Farmers Market (オーククリーク市)

毎週土曜日に、行政が主催し、公有地の広場を活用するマーケットである。

広場の中央に滞留空間を設け、広場へ向かう動線上に店舗を配置する特徴がある。また、ヨガや子ども向けのプログラムといった空間活用を誘発する仕組みと、芝生やファニチャーといった来訪者が自由に利用できる空間を有する計画である。中央に引き寄せられる空間が来訪者の滞在につながり、意図的・偶発的の双方を有する滞留空間が多様なアクティビティの創出につながると考える。

(4) Kenosha Harbor Market (ケノーシャ市)

毎週土曜日に、非営利団体が主催し、公有地の前面道路を活用するマーケットである。

前面道路に店舗が出店し、周辺の公共空間に滞留空間を設けることで来訪者の動線と滞留空間を分離する特徴がある。店舗の利用者・滞留空間の利用者の双方が快適に滞在できる空間を提供し、滞留空間は仮設及び常設のファニチャーや芝生を活用することで、多様なアクティビティを創出すると考える。

3. まとめ

米国・ウィスコンシン州の4つのマーケットを対象とした空間的特徴の分析を通じて、以下の点が明らかになった。

①来訪者の動線を明確にし、快適に滞在できる空間を計画する。②マーケットを開催する空間だけでなく、周辺の施設や公共空間と一体的な活用を行う。③仮設及び常設の滞留空間を有する空間の計画により、意図的かつ偶発的なアクティビティを創出する。

以上を踏まえた空間を計画することが、マーケットの開催における、来訪者の滞在や多様なアクティビティの創出につながると考える。

謝辞

本研究は、一般財団法人第一生命財団による一般研究助成に基づいたものである。

補注

注1) 総務省「今後の都市部におけるコミュニティのあり方に関する研究会」報告書, <https://x.gd/7mxic> (最終閲覧日 2025年9月27日)

注2) 中小企業庁「商店街実態調査報告書」, <https://x.gd/7tf32> (最終閲覧日 2025年9月27日)

注3) Project for Public Spaces 「12th International Public Market Conference」, <https://x.gd/ok50n> (最終閲覧日 2025年9月27日)

注4) Milwaukee Public Market 「Milwaukee Public Market: About us」, <https://x.gd/7IHKL> (最終閲覧日 2025年9月27日)

注5) Project for Public Spaces 「Get Ready for the 12th International Public Markets Conference in Milwaukee!」, <https://x.gd/CaCBm> (最終閲覧日 2025年9月27日)

注6) 筆者撮影

参考文献

[1] 鈴木美央(2024)「行政施策としての屋外仮設マーケットに関する研究(その1): 基礎自治体によるマーケット関連業務の実施状況」, 日本建築学会技術報告集, 第30巻, 第75号, pp.974-978

[2] Project for Public Spaces(2016)「Making Your Market a Dynamic Community Place」